

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?		6 人	3 人		9 人
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?		5 人	4 人		9 人
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	1 人	4 人	4 人		9 人
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?		6 人	3 人		9 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>事業所として、「関係づくりから」という考えが浸透しており、利用初期に支援に入りすぎないようにできている。また、通いの場ではしっかりと職員が仲介に入り、慣れないうちでも円滑にコミュニケーションがとれるよう配慮している。ご家族様も協力的な家庭が多い。日々の思いを聞き出せるよう気にかけている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>ご利用者様の基本的な情報以外に、生活歴や趣味嗜好など社会的・文化的側面の情報が少ない。それに伴い、本人のニーズが分からず、必要な支援が何なのか迷ってしまう。また、そういった情報の量が職員ごとにバラバラになりがちであり、関わり方も職員によってずれが出ている場合があると思われる。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>支援経過等の必要な記録物以外に、「〇〇様ノート」を作る。このノートには日々の関わりの中で分かったご利用者様の様々な情報 (例えば、好きなものや場所。昔どんなことをしていたか等、なんでも。) を記入。イラストや漫画を盛り込み、見て分かりやすくなるよう工夫する。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?		3 人	6 人	1 人	9 人
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		4 人	5 人		9 人
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		1 人	8 人		9 人
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		3 人	6 人		9 人

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
日々の関わりの中で、思いや希望を聞き出せるようには心掛けている。また、その中でご利用者様のちょっとした気になる発言などは細かく記録に残し、職員全員が共有できるようにしている。記録をもとに夕礼で話をし、翌日以降の支援へ引き継いでいっている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
ケアプランの「～したい」に対する理解が乏しく、また、ケアプラン自体が把握しきれない現状もある。そのため、関わりも必然的に、自己実現の観点で抜け落ちてしまいがち。自己実現を目指した関わりをしようと思っても、業務・時間に追われてしまい十分な個別対応の時間が確保できないのも大きな問題と思われる。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)  
まず、ケアプランの把握・理解が出来ていない事の改善のため、ライフサポートプランだけを一覧にしたファイルを作成する。全員分をすぐに見られるよう工夫していく。個別対応の時間確保においては、現在行っている全員分の訪問について、時間・頻度・支援内容などが適切かどうか再検討を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

3. 日常生活の支援

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		1人	6人	2人	9人
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?		7人	2人		9人
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		3人	6人		9人
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2人	7人			9人
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		5人	4人		9人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
体調に合わせて入浴や食事時間の調整、食事の量や嗜好なども含め、基礎的な介護、個別ケアは出来ている。また、ご利用者様の体調変化には気を配っており、必要時には看護師が自宅へ訪問する場合もある。体調変化に対する情報共有も、都度話をし、記録に残し回覧することが出来ている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
ご利用者様の残存機能について、職員ごとに認識が違うことがある。そのため、場合によってはご利用者様本人がまだ出来る事を職員が行ってしまうことがあった。「残存機能の把握が不十分だから、ご利用者様にとって本当に必要な支援が分からない。」という意見も出ている。また、支援について話し合う際に、あまり変化のないご利用者様についてはほとんど議題に出てこないのも大きな問題と思われる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
どこまでできるのかという点においての専用の評価シートを導入する。見て分かりやすい形をとることで職員の認識を統一し、本人のニーズを考えやすくしていく。もう一点の改善案として、会議の方式の変更を行う。事前に職員へアンケートをとり、その日話し合いたいことのレジュメを作成、出した事例については確実に時間内で話し合いを持てるよう工夫する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?			6 人	3 人	9 人
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		3 人	4 人	2 人	9 人
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		2 人	6 人	1 人	9 人
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?			6 人	3 人	9 人

**できている点** 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
 ご利用者様自身の地域との関わりについては、当事業所が小規模多機能型へ転換となって以降、特に意識は出来ている。実際に、ご利用者様の近隣住民やかかりつけ医、薬剤師など、多くの方々が支援に協力して下さっている事例もある。本人は独居、ご家族様が遠方に住まわれているケースにおいても、連絡を密にとることで、ご利用者様とご家族様の関係が切れないよう配慮している。

**できていない点** 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
 ご利用者様の持つ関係性 (例えば、家族構成や親類について、近所付き合いなど) の情報量が、職員ごとに大きく違う。関係性を切らないような支援を事業所として行っていく為には、一部の職員に情報が偏らず、関わる職員全員がある程度、同じような情報は持つておくべきと思われる。

**次回までの具体的な改善計画** (200 字以内)  
 職員ごとの情報量の均一化・共有を図るため、エコマップ (本人の持つ関わりを図式化したもの) を導入する。関わりを可視化することで分かりやすくしていく。エコマップの作成は採用から日が浅い職員が担当し、他職員からの聞き取りをしながら作成。職員の入替わりがあるたびに、新しい職員が担当し更新していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画

前回の改善計画に対する取組み結果

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		2 人	5 人	2 人	9 人
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	1 人	6 人	2 人		9 人
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	1 人	7 人	1 人		9 人
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?		8 人	1 人		9 人

**できている点** 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
 体調や状態に合わせて緊急的に泊まりになったり、訪問を追加したりと、柔軟な対応は出来ている。また、事業所以外の方がご利用者の支援に協力して下さっている事例もあり、幅広い視点で支援を実践できていると思われる。

**できていない点** 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
 「現在行っているサービス提供（訪問の時間や内容、頻度、泊まりの実施についても）が、適切かどうか分からない」という意見が多く見られた。【③日常生活の支援】のシートで前述のように、残存機能の認識が統一できない事に起因し、本当に必要なことに対するサービス提供なのかが判断できない。

**次回までの具体的な改善計画** (200 字以内)  
 まず、【③日常生活の支援】での改善計画を実施する。次に、職員複数名で、現在行っているサービス提供を全員分、24 時間の時間軸とともに、全て紙に書きだす作業を行う。可視化することで考えやすいよう工夫し、職員全員の意見を出しやすくしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

6. 連携・協働

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	1 人	1 人	3 人	4 人	9 人
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？		1 人	3 人	4 人	9 人
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？		1 人	4 人	4 人	9 人
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？		4 人	4 人	1 人	9 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>書道やちぎり絵など、事業所へ近所の方が教えに来て下さっている。避難訓練や行事にも、近所の方の参加がある。ご利用者様の支援においても、担当者会議を通して必要なサービス機関、場合によっては行政や地域住民など、様々な機関との情報共有は行っている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>事業所での行事や、書道やちぎり絵での近所の方の来訪はあるが、こちらから地域の行事などに出向くことがない。</p> <p>ご利用者様の支援に関わって下さっているその他サービス機関等について、担当者会議に出席する一部の職員しかわかっていない。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>公民館だよりなど定期的にもらいに行くようにする。特に公民館での習い事のような、定期開催されているものがあれば、事前に予定を把握し参加を検討しやすい。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

7. 運営

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		3 人	5 人	1 人	9 人
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1 人	5 人	2 人	1 人	9 人
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3 人	3 人	1 人	2 人	9 人
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?		2 人	4 人	3 人	9 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
意見や苦情に対しては真摯に受け止め、なるべく早い対応は出来ている。実際に今年度、事業所前で車輛事故があった際にも意見を頂き、すぐに話し合いを持ち、改善策を講じた。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域との協働した取り組みは一切ない。【⑥連携協働】のシートで前述のように、こちらから地域へ出向くことができなく、ある意味、吉方温泉という地域の中で事業所が閉ざされた空間になっているのかもしれない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
業務分担として「地域」担当を作る。公民館の習い事や地域行事など、地域担当が中心となり計画を立てていく。また、ご利用者様の送迎時、歩行が自立の方はコモン吉方温泉から事業所まで徒歩で移動したり、散歩のついでにゴミ拾いを行う。少しずつではあるが、外へ出向く機会を増やしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

8. 質を向上するための取組み

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	1 人	2 人	3 人	3 人	9 人
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1 人		5 人	3 人	9 人
③	地域連絡会に参加していますか		1 人	1 人	7 人	9 人
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		3 人	5 人	1 人	9 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 職場内での研修は出来ている。介護事故に関しては気付きを随時共有し、リスクマネジメントに取り組んでいる。事故後の対応も、原因を話し合い、再発防止に努められている。
--------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 外部研修への参加が難しいことが多い。リスクマネジメントについては、介護事故に関することは出来ているが、その他の事は出来ていない。特に、収納スペースが少ないことに起因し物が散乱しがちになっており、紛失リスクは高い現状がある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) これまでは外部研修の振り返りを復命書の回覧のみとしていたが、会議の日に合わせて復命研修の時間を設けるようにする。物の紛失リスクに関しては、今年度中に一度、片付けの日を作り、整理する。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 10 月 25 日 ( 18:30 ~ 20:30 )

9. 人権・プライバシー

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	8 人	1 人			9 人
②	虐待は行われていない	8 人	1 人			9 人
③	プライバシーが守られている		7 人	2 人		9 人
④	必要な方に成年後見制度を活用している		2 人	4 人	3 人	9 人
⑤	適正な個人情報の管理ができている		8 人	1 人		9 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>身体拘束や虐待は一切ない。トイレや入浴なども、希望により同性介助や、職員とご利用様の 1 対 1 での対応とするなど、プライバシーが守られるよう配慮できている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>建物の構造上スペースがなく、職員間の引継ぎ等がご利用様のいる場所になってしまうことがある。ご利用様に聞こえてしまう事もあり、プライバシーが守られているとは言えない。また、記録をリビングのテーブルで行うため、記録物をそこに置いたままにしまい、ご利用様や来訪された方の目につく事がある。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>職員間引継ぎ用のホワイトボードを作成する。排泄や食事量、バイタル、服薬チェック、特記事項など記入し、声に出さなくても、見て引継ぎが出来る体制を作る。記録物に関しては、一度事務所内を整理し、記録物専用の保管スペースを設ける。</p>	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域で暮らす会	代表者	井上 徹	法人・ 事業所 の特徴	いくのさん家の基本理念「関係性こそ、その人らしさ どう生きたいか、に立ち返る ひとりの支援は、地域を変える」に沿って、住み慣れた自宅や地域での生活が安心して継続出来るよう支援している。事業所が小さく、とても家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様ひとりひとりに楽しんで頂けるよう心掛けている。
事業所名	小規模多機能ホーム 吉方温泉いくのさん 家	管理者	山本 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	1人	1人	人	1人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			ご利用者様の生活歴など、多くの職員が「あまり把握できてない」と答えているのが気になる。	〇〇様ノート（趣味嗜好、生活歴などのみ記入）の作成。
B. 事業所のしつらえ・環境			狭い。自由な空間があった方が良い。	事務所内などの煩雑な部分を整理、スペース確保に努める。
C. 事業所と地域のかかわり			・職員が、近隣との繋がりをしっかり持った方が良い。 ・地域に出向くことを心掛けたい。	業務分担に「地域担当」を作る。地域行事などの外出計画を担当する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			職員毎に、本人の持つ地域での関係性についての情報量が大きく異なる。	エコマップを作成し、全員が共有できるように工夫する。
E. 運営推進会議を活かした取組み			・事故の際、委員に意見を求め改善しようとする姿勢が見える。 ・服薬事故が続いている。しっかりと改善しないとイケない。	・服薬のチェック表を作成。全員の目で、漏れがないよう徹底する。 ・事故等の際は外部にも意見を求め、より良い対応ができるよう心掛ける。

F. 事業所の 防災・災害対策			防災訓練はしているが、ほとんど 事業所内のみで完結してしまっ ている。	地域行事への参加を通して、まず 事業所を知ってもらうよう努力 する。
--------------------	--	--	---	--